

報告第2号

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

1 概要

地域公共交通確保維持改善事業実施要領に基づき、地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統確保維持事業）及び計画策定に係る事業（地域公共交通調査事業）における自己評価（一次評価）を実施し、令和3年1月29日に関東運輸局に提出したものである。

2 評価対象事業

事業名 令和2年度地域内フィーダー系統確保維持事業
系 統 霞ヶ浦広域バス
実施期間 令和元年10月1日～令和2年9月30日

事業名 令和2年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金
（地域公共交通調査事業（計画策定事業））
実施期間 令和2年4月1日～令和3年3月31日

3 事業評価の流れ

令和2年度地域内フィーダー系統確保維持事業

令和元年 6月 令和2年度計画審議・承認
（令和元年度第2回市地域公共交通会議）
6月末 計画申請
10月 事業実施（～令和2年9月）
令和3年 1月 自己評価（一次評価）

2月 二次評価（関東運輸局実施）

※ 二次評価結果は、必要に応じて次期生活交通確保
維持改善計画等に反映させる。

令和2年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金

（地域公共交通調査事業（計画策定事業））

令和2年 5月 交付申請

6月 交付決定、事業実施（～令和3年3月）

令和3年 1月 自己評価（一次評価）

2月 二次評価（関東運輸局実施）

令和2年度 かすみがうら市地域公共交通会議 (茨城県かすみがうら市) (地域内フィーダー系統確保維持事業)



地域の公共交通等の現況

当市は平成17年3月に霞ヶ浦町と千代田町との合併により誕生し、霞ヶ浦・千代田両地区が交わる市域中心にJR常磐線神立駅がある。公共交通は、路線バス、霞ヶ浦広域バス、デマンド型乗合タクシーの3つが柱となっており、バスについては、市西側の千代田地区のみ路線網があり、関鉄観光バスと関鉄グリーンバスの2社によって、石岡市・土浦市間の5路線が市内を通過する形で運行されている。一方の霞ヶ浦地区では、路線バス利用が減少傾向にあったことから、維持継続に困難な状況が生じ、平成21年3月31日に3路線が廃止となった。そこで、平成24年6月から霞ヶ浦広域バスを1路線運行している。また、令和元年10月1日より新規バス路線として、神立駅を中心に市街地循環並びに、基幹病院を結ぶ路線の運行を開始した。

交通計画の目指す概要／地域公共交通に関する施策・取組の概要

当市では、通勤通学はもとより、買い物や通院目的等も含めて土浦方面への移動ニーズが高い。特に霞ヶ浦地区は、平成21年3月31日に民間路線バスが全廃となり、移動手段を持たない高齢者等の日常生活に大きな影響が出始め、効率的・効果的な交通手段の確保が重要な課題となっていた。このため、当市の広域的な交流を支える役割を担うとともに、中心市街地の活性化、安心して生活できる市民生活の確保など、まちづくりの観点から総合的な公共交通の連携・再編が求められ、「市地域公共交通総合連携計画」に基づき平成24年度から霞ヶ浦広域バスを本格運行した。霞ヶ浦広域バスを将来的に維持させていく必要性はさらに高まっており、平成27年度に策定した「市地域公共交通網形成計画」に則り運行計画の拡充を図る。

交通施策として実施した事業の全体像の概要

「市地域公共交通網形成計画」をもとに、効率的で利便性の高い交通システムの構築を目指すため、施策を実施している。

【施策の概要と事例】

- ・JR神立駅から土浦協同病院へのアクセス路線の推進：新規バス路線「千代田神立ライン」の開通
- ・霞ヶ浦広域バスの拡充／バリアフリー化の推進：56人乗りノンステップバスを導入
- ・福祉タクシー助成制度の充実：要援護高齢者等福祉タクシー助成券の制度拡充
- ・情報提供の充実：バス車内におけるフリーWi-Fi整備、リアルタイムバス位置情報の提供

補助対象事業の概要

地域間交通を確保・維持する取組みとして、土浦駅（土浦市）⇄玉造駅（行方市）を結ぶ霞ヶ浦広域バスを平成24年6月から運行している。

【コミュニティバス「霞ヶ浦広域バス」】←補助事業

事業者名：関鉄グリーンバス株式会社
運行系統：玉造駅～土浦駅 29.8km
運行日：年中無休
運行時間帯：6時25分～20時55分
運行本数：5往復／日
運行車両：ノンステップバス
運賃：170円～720円

面積	156.60km ²
人口 (R2.4.1時点)	41,483人
15歳未満	4,570人
65歳以上	12,610人
高齢化率	30.4%
世帯数	17,498世帯

交通計画の策定年月日

平成(令和)28年3月18日

協議会開催状況

○協議会の開催状況 7回開催

- ・第1回(4月23日):今年度事業計画について審議
- ・第2回(6月12日):令和3年度生活交通確保維持改善計画(案)について
- ・第3回(8月12日):地域公共交通計画について
- ・第4回(10月20日):地域公共交通計画について
- ・第5回(11月12日):地域公共交通計画について
- ・第6回(2月実施予定)
- ・第7回(3月実施予定)

前回の事業評価結果の反映状況

令和2年度の計画については、更なる利用促進を目指し利用者数及び収支率目標を高く設定した。市広報誌におけるバス路線周知や、学生向けの通学定期券「スクールパス」の広報周知を実施した。また、運転免許証を返納した高齢者への支援策として路線バス回数券2万円分、もしくは交通系ICカード2万円分の進呈しバス路線の利用促進に努めた。

定量的な目標・効果

【評価指標・目標値】

- ・指標①: 利用者数⇒目標値: 1日当たり利用者数を9人/便以上
- ・指標②: 収支率⇒目標値: 60%以上

【当該指標・目標値を設定した理由】

・網形成計画における数値目標として、霞ヶ浦広域バスの利用者数を20%以上増加(平成26年度実績比としているため。

【効果】

・当該路線を維持することにより、生活圏域として依存度の高い土浦方面への移手段が確保できる。また、他の路線バスやJR常磐線といった幹線系統と連携できるため、公共交通を乗り継いだ広域的な移動が可能となり、このことは通勤通学や通院、買物など市民にとって重要な路線といえる。

目標・効果の達成状況

【指標①】 実績: 7.1人/便

【目標を達成できなかった要因(分析)】

令和元年10月～令和2年2月の間は前年比を上回っていたが新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が減少したことから目標を達成することができなかった。(利用者数前年比76.6%)

【指標②】 実績: 45.7%

【目標を達成できなかった要因(分析)】

令和元年10月～令和2年2月の間は前年比を上回っていたが新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少したことから目標を達成することができなかった。(収入前年比80%)

【効果】

新型コロナウイルス感染症対策のため、車内換気や消毒など安全性の確保を行うと同時に、フリーWi-Fiやリアルタイムバス位置情報の提供など、バス利用者の利便性向上に向けた環境を整備することで、バス利用者数の回復とバス路線の維持に努める。

アピールポイント

- ・学生向けにお得な定期券「スクールパス」を発売し、通学利用の向上に努める。
- ・平成30年7月から56人乗りノンステップバスを導入し、座席にモバイル電源用USBコンセントを設置したほか、バス車内でフリーWi-Fiを利用できる環境を整備し、バス利用者の利便性向上に努める。
- ・令和元年10月からバスロケーションシステムを導入し、スマートフォンなどからバスの現在位置をリアルタイムに確認できる環境を整備し、利便性向上に努める。

今後の改善点

- ・高齢者による自動車交通事故防止及び公共交通利用促進のため、運転免許を返納した65歳以上の者に、交通系ICカード2万円分を進呈する。
- ・学生向けの通学乗車券「スクールパス」の広報周知を強化し、バスの利用促進につなげる。
- ・市では令和元年10月から、JR神立駅を拠点として、神立病院や千代田ショッピングモール周辺の市街地循環並びにJR神立駅と土浦協同病院を結ぶバス路線である千代田神立ラインを運行している。土浦協同病院でのバス接続について広報・周知を強化し、両バス路線の利用促進につなげる。
- ・安全性の確保を徹底し、公共交通の安全性の周知を図る。

令和2年度 かすみがうら市地域公共交通会議（茨城県かすみがうら市） （地域公共交通調査事業）

概要

○公共交通の概況

かすみがうら市の公共交通は、千代田地区を運行する路線バス、霞ヶ浦地区の幹線道路を経路とする霞ヶ浦広域バス、両地区を広範囲に運行するデマンド型乗合タクシーを運行し、市域の中央を南北方向にJR常磐線が位置し、市民の広域的な移動の玄関口となっている。また、令和元年からは神立駅と基幹病院を結び、市街地を循環する路線バス「千代田神立ライン」の運行を開始した。

バスについては、関鉄グリーンバス(株)と関鉄観光バス(株)の2事業者が市内を運行しており、霞ヶ浦地区を運行する霞ヶ浦広域バス(関鉄グリーンバス)の運行経費は、国庫補助に加え隣接する土浦市、行方市及び本市が補助金を支出し、3市連携によって広域バス路線を保持している。



面積	156.60km ²
人口（R2.4.1時点）	41,483人
15歳未満	4,570人
65歳以上	12,610人
高齢化率	30.4%
世帯数	17,498世帯

計画策定調査の必要性

本市においては、地域公共交通に関わる全ての関係者が連携して持続可能な公共交通ネットワークの再構築に向けて取り組んでおり、市民、交通事業者、行政がそれぞれの役割を担い、一体となって本市の公共交通が抱える問題や課題の他、市民の公共交通に対する不安などを解消することを目指すべき将来像としている。その実現のため、上位計画や関連計画との整合を図りつつ公共交通利用者の移動実態について調査することが必要となる。

協議会開催状況

- 協議会の開催状況 7回開催
- ・第1回(4月23日):今年度事業計画について審議
 - ・第2回(6月12日):令和3年度生活交通確保維持改善計画(案)について
 - ・第3回(8月26日):地域公共交通計画について
 - ・第4回(10月20日):地域公共交通計画について
 - ・第5回(11月12日):地域公共交通計画について
 - ・第6回(2月実施予定)
 - ・第7回(3月実施予定)

調査の内容

①市民及びバス利用者の移動実態調査

公共交通を利用した移動に限らず、自家用車等を含めて、市民の全般的な移動状況を把握するため、市民アンケート(3,000世帯)を実施する。

②地域公共交通の問題点と課題の整理

2019年度に実施した基礎調査の結果、既存データ(統計データや事業者の有するデータ等)をもとに、地域公共交通の実態を整理し、問題点と課題を抽出する

③計画(案)のとりまとめ

・基本方針・目標の設定

本市の網形成計画の視点から基本方針を設定し、それにもとづく目標(数値目標・評価指標等)を設定する

・公共交通施策の検討

交通事業者、市、市民等の関係主体が協力して進めるべき公共交通施策を体系的に整理する。

・推進方策の検討

計画で位置付ける事業の実施計画を円滑に推進するため、関係機関や交通事業者等と協議調整の上、体制や進行管理の方法等を検討する。

④協議会の開催

地域公共交通会議・・・第1回:4月23日、第2回:6月12日、第3回:8月26日、第4回:10月20日、第5回:11月12日、第6回:2月、第7回:3月実施予定

調査事業の結果概要

既存の公共交通の維持とともに新たな交通のあり方について工夫し、「市内のどこからでも公共交通で移動公共交通網」と、「鉄道・バス・デマンド交通の役割分担を明確にし、運行経費の節減と運行効率化」、この2つが両立する公共交通体系を構築するため5つの目標を掲げる。

目標①: 中心市街地へのアクセス向上 / 目標②: 公共交通の必要性の高い主体の移動性の確保・充実 / 目標③: 広域連携の維持・推進
/ 目標④: 多様な交通機関相互の連携・強化 / 目標⑤: 公共交通を支える体制づくり

地域公共交通計画等の策定の方針

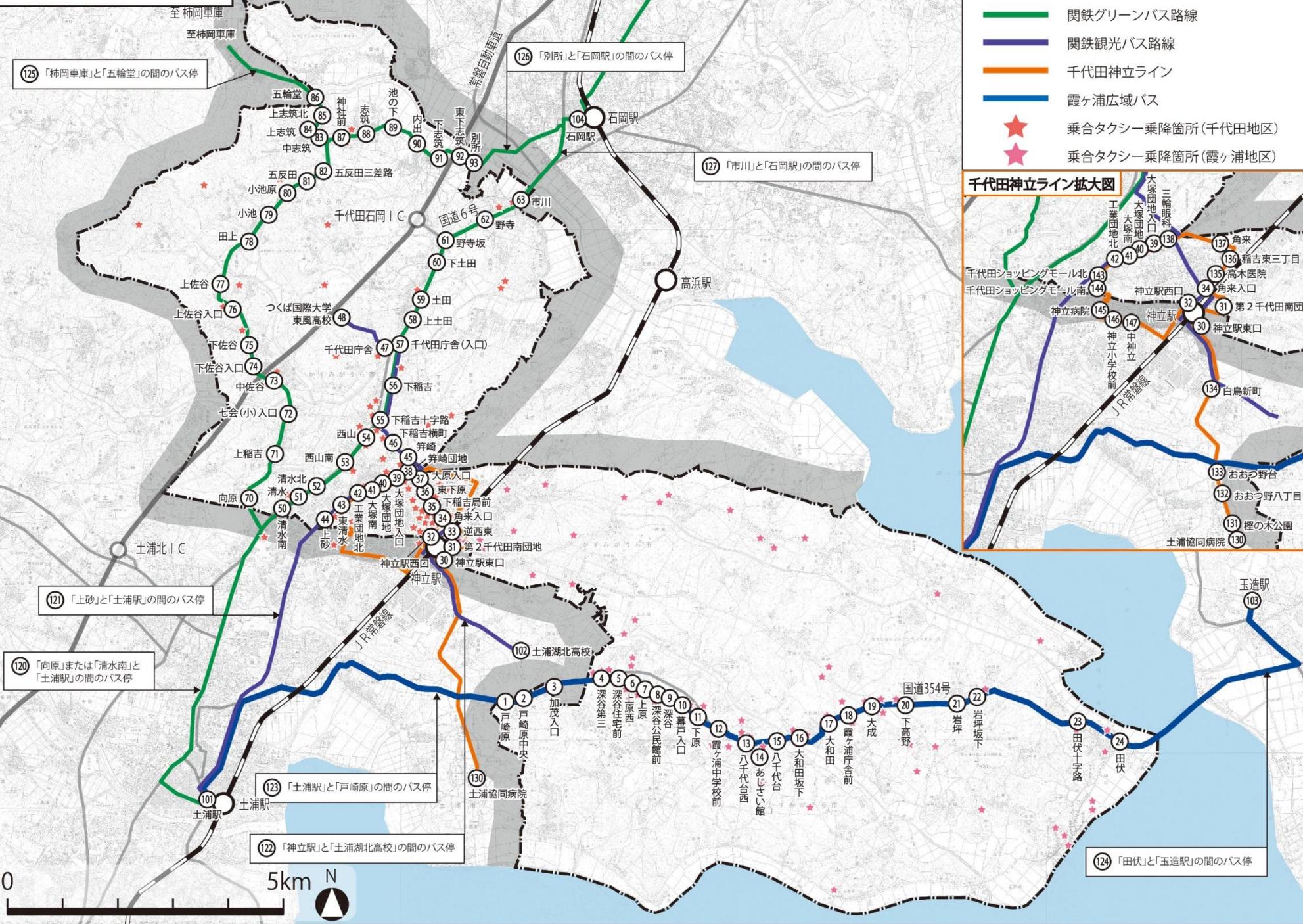
「市内のどこからでも公共交通で移動できる公共交通網」と、「鉄道・バス・デマンド交通の役割分担を明確にし、運行経費の節減と運行効率化」、この2つが両立する公共交通体系を構築する。

次年度以降の取組概要

①霞ヶ浦広域バスの維持・拡充 / ②千代田神立ラインの再編 / ③デマンド型乗合タクシーの維持・拡充 / ④タクシー利用助成事業の見直し / ⑤運転免許証自主返納支援事業の継続 / ⑥路線バスの維持・拡充 / ⑦バリアフリー化の推進 / ⑧交通結節機能向上とバス待ち環境の整備 / ⑨地域公共交通と既存公共交通の活用可能性の検討 / ⑩新技術の導入検討 / ⑪モビリティ・マネジメントの継続的实施 / ⑫情報提供の充実

公共交通マップ

- ① バス停番号
- 関鉄グリーンバス路線
- 関鉄観光バス路線
- 千代田神立ライン
- 霞ヶ浦広域バス
- ★ 乗合タクシー乗降箇所(千代田地区)
- ★ 乗合タクシー乗降箇所(霞ヶ浦地区)



125 「柿岡車庫」と「五輪堂」の間のバス停

126 「別所」と「石岡駅」の間のバス停

127 「市川」と「石岡駅」の間のバス停

121 「上砂」と「土浦駅」の間のバス停

120 「向原」または「清水南」と「土浦駅」の間のバス停

123 「土浦駅」と「戸崎原」の間のバス停

122 「神立駅」と「土浦湖北高校」の間のバス停

124 「田伏」と「玉造駅」の間のバス停